

◎サポーターほっとニュース

「サポーターほっとニュース」では、障がい者サポーターとして登録された方の活動や、サポーター制度への期待を込めたコメントやお話などの情報を紹介していきます。

第22回目は、ご報告が大変遅くなりましたが、平成28年3月に行った障がい者サポーターワークショップについてレポートします。

【第22回】 障がい者サポーターワークショップ レポート

障がい者サポーターと障がい者が交流し、サポーターの障がいへの理解をさらに深めるための機会として、グループワーク形式による障がい者サポーターワークショップを開催しました。

今回のテーマは「障がいのある人のために私達ができることって？」です。

前半では、「こんなことに困っています！」というテーマのもと、意見を出し合っていました。障がい者の方からは、「障がいへの誤った認識が本人の行動を制限してしまうことがある」、「内部疾患や発達障がいなど、目に見えない障がいへの理解が進んでおらず、目に見える障がいへの対応と差がある」といった周囲からの理解不足を指摘する意見や、「車椅子ででかける際に段差が多く、入れるお店が少ない」、「駅のホームで放送が聞こえないため利用しづらい」といった施設利用時の不便を訴える意見が上げられました。サポーターの方からは、「どのタイミングで声をかければいいのか分からない」など、実際に障がいのある方々のお手伝いをする際のとまどいの声が上げられたため、実際に障がい者の方がどのように手伝って欲しいのかお伺いし、今後のサポートの仕方について話し合ってくださいことが出来ました。



▲話し合い中、共感すること多いようでした



▲グループ毎に意見をまとめ、発表して頂きました

後半では、「こんなサポーターになりたい（なって欲しい）」というテーマで話し合い、「障がいのある方に対して、自然に声掛けしてお手伝いができる」サポーターが必要だという意見が多く上がりました。また、障がいに対する理解が進んでいないと感じるため、障がいの特性や違いについて自分自身が学ぶだけではなく、周囲へ広めるための活動も行っていきたいと、理解促進のための活動についてみなさん意欲的な様子でした。今後もサポーターと障がいのある方との貴重な意見交換の場として、ワークショップを開催していきたいと思っております。

Topics 心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスターコンクール

障がいの有無にかかわらず、誰もが地域や職場・学校などでともに支えあって暮らす「共生社会」の実現を目指して、障がいのある人とない人との心のふれあい体験を綴った「心の輪を広げる体験作文」と、障がいのある人に対する国民の理解を広めるための「障害者週間のポスター」を募集します。

◎募集期間

平成28年7月1日（金）～9月8日（木）まで

※応募者全員に参加賞をプレゼントします！

また、最優秀賞、優秀賞の受賞者には、賞状と副賞を贈呈し、各部門の最優秀作品は、内閣府が主催する全国の審査会に推薦します。

応募方法など、詳しくは別紙チラシをご覧くださいか、障がい保健福祉課（TEL：096－328－2519）へお問い合わせください。



▲H27年度 小学生部門最優秀賞

『点字ブロックにおかないで』

中村 日玲さん

Topics 白い杖のシグナルは、あなたのサポートを求めています！

～「白杖SOSシグナル」運動の普及啓発シンボルマーク～



▲シンボルマーク

左のイラストのように、白杖を頭上に掲げている方をお見かけしたことはありますか？この動作は、視覚に障がいがある方が困ったことがあった際に、サポートを求めるサインです

白杖によるSOSのシグナルを見かけたら、進んで声をかけ、困っていることなどを聞き、手助けをしましょう（SOSのシグナルが示されていなくても、視覚に障がいのある方が危険に遭遇しそうな場面や困っている様子を見かけたら、声かけとサポートをお願いします。）。

＜お声かけの際は・・・＞

- ・まず、正面から「どうかなさいましたか」など、声をかけてください
- ・案内をする場合は、自分の肩やひじなどに手をかけてもらい、ゆっくり誘導しましょう
- ・白杖を持つ手にふれないようにしましょう

